

酒造好適米新品種「酔むすび」の特性	
【要約】 中山間地帯向けの酒造好適米新品種として「酔むすび」を育成した。本品種は「コシヒカリ」より熟期が5日程度遅く、「ひだほまれ」に比べ心白発現率、心白率が低いため精米時の割れが少なく、吟醸酒や大吟醸酒への加工に適する。	
中山間農業研究所 中津川支所	【連絡先】 0573-72-2711

【背景・ねらい】

本県では山間高冷地帯向けの酒造好適米品種「ひだほまれ」が奨励品種となっており飛騨地域を中心に栽培されているが、中山間地帯向けの酒造好適米奨励品種がないため美濃地域の酒造業者から美濃地域に適した新品種の育成が強く求められていた。そこで、中山間地帯での栽培に適した酒造好適米品種を育成する。

【成果の内容・特徴】

- 1 岐阜県高冷地農業試験場（現 中山間農業研究所）において昭和60年に晩生で小心白の「ひだみのり」を母本に、醸造適性が優れる「ひだほまれ」を父本に交配し育成された系統「飛系酒61号」の継代種子を中津川支所の水田に展開し、「ひだほまれ」より晩生で小心白の特性を有する個体を見出した。令和2年から岐阜県食品科学研究所により酒米特性評価を行い、適性が認められたため令和3年度に地方系統番号「東濃酒10号」を付した。令和4～5年度に生産力検定と酒造業者で実需レベルの醸造適性評価を行い、遺伝的固定が概ね終了したことから育成を完了し「酔むすび」として品種登録出願した（出願番号：第37261号）。
- 2 「酔むすび」は、成熟期が「ひだほまれ」より10日程度遅く、「コシヒカリ」より5日程度遅い中生の品種である（表1）。
- 3 「酔むすび」は、「コシヒカリ」と比べて穂数は少ないものの穂長が長い偏穂重型の品種で、玄米収量は「ひだほまれ」と同等以上、千粒重は27.0gで「ひだほまれ」よりやや小さい（表1）。
- 4 「酔むすび」の稈長は、「ひだほまれ」よりやや長く「コシヒカリ」と同程度であるものの稈が太いため倒伏耐性がある（表1、図1）。
- 5 「酔むすび」の心白率、心白発現率は、「ひだほまれ」に比べて低く、吟醸酒や大吟醸への加工に適する（表2、図2）。
- 6 胴割れしやすいため、適期収穫を心掛ける。適期の目安は現在確認中であるが、出穂期からの積算温度でおよそ975℃である（単年度試験の結果）（図3）。

【成果の活用・留意点】

- 1 穂発芽しやすいため成熟期に雨が続く場合は早めに収穫する。
- 2 葉いもち圃場抵抗性はあるが葉いもちの感染事例があるため、通常品種と同程度のいもち病の防除を行う。
- 3 平坦地など標高の低い地域では収量や品質が劣る。
- 4 大粒品種のため播種量は乾粃200g/箱とすることが望ましい。
- 5 最適な施肥量など安定生産に向けた栽培管理方法は現在検討中である。

【具体的データ】

表1 育成品種の特性（令和4～6年平均、5月15日移植、支所内水田圃場）

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	玄米 収量 (kg/a)	千粒重 (g)	品質		障害程度				
								外観 品質	等級	倒伏	ごま 葉枯	葉い もち	穂い もち	紋枯
酔むすび	8.07	9.13	82.9	21.3	261	57.2	27.0	4.0	2	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0
ひだほまれ	7.27	9.03	76.3	20.4	261	55.4	28.2	3.5	1	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0
コシヒカリ	8.02	9.08	89.0	19.1	353	59.0	23.5	4.0	2	2.0	0.0	0.5	0.0	0.0

注1)出穂期、成熟期、稈長、穂長、穂数、玄米収量、千粒重：2022～2024年度の特性評価試験の結果の平均値を使用。

注2)品質、障害程度：2022～2024年度の特性評価試験の平均値を算出し、最も近い階級値を記載。

注3)玄米収量、千粒重：水分15%換算

注4)外観品質：1→9 = 上の上 → 下の下

注5)等級：R4年はJA全農岐阜、R5、R6年はJAひがしみのによる



図1 酔むすびの草姿（中央）
（左：ひだほまれ、右：コシヒカリ）

表2 「酔むすび」の心白発現率、心白率

	整粒 (%)	心白			心白 発現率 (%)	心白率 (%)
		(大)	(中)	(小)		
酔むすび	61.1	1.9	10.8	2.3	24.5	18.8
ひだほまれ	43.1	8.7	23.5	3.9	83.8	67.4

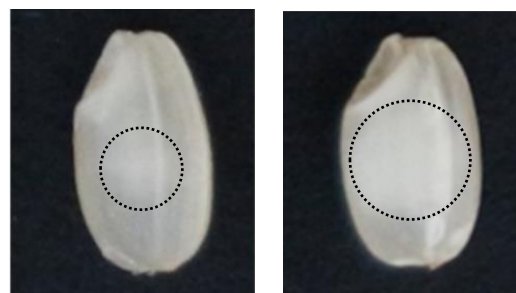


図2 酔むすびの心白（右：ひだほまれ）

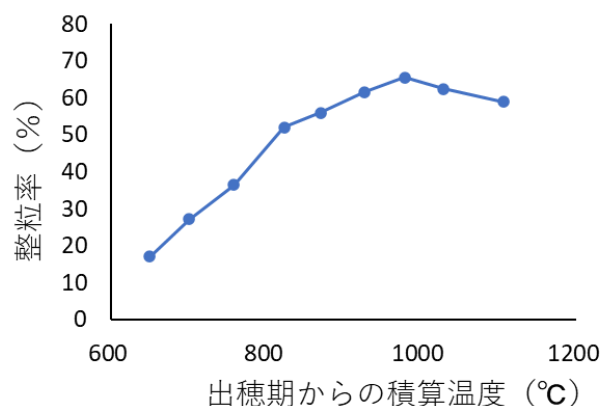


図3 積算温度と「酔むすび」の整粒率（2024年、支所内）

※整粒率：静岡製機株式会社 穀粒判別器 ES-1000 による

研究課題名：加工利用米県オリジナル新品種の育成と栽培技術の確立（令和3～7年度）

岐阜県産米を利用した新しいブランド品目の開発（令和元～3年度）

研究担当者：服部哲也・工藤溪汰